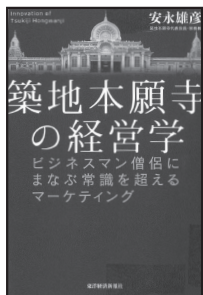


教化センターだより

No. 412

発行日 2021年10月1日
 発行 真宗大谷派大阪教区
 教化センター
 TEL 06-6251-0745
 FAX 06-4708-3278

◆ 御堂文庫 蔵書の紹介 ◆



『築地本願寺の経営学 ビジネスマン僧侶にまなぶ常識を超えるマーケティング』

[著者] 安永 雄彦

2012年春。浄土真宗本願寺派は大きな組織改革を行いました。会社組織にたとえば、それまで本山本願寺（西本願寺）の東京支店的存在だった築地本願寺は、いわば東京本部もしくは子会社（直轄寺院）として位置づけられたのでした。約800年の歴史を持つ浄土真宗。その宗教組織は変革の時期を迎えていました。

（はじめにより）

〈発行〉 東洋経済新報社



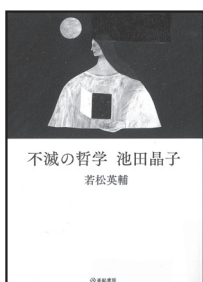
『他者を感じる社会学 差別から考える』

[著者] 好井 裕明

“見えない”恐怖と不安に対峙するために何が必要なのでしょうか。それは「自分と同じように恐怖し不安になっている他者がそれぞれの場で生きていることへの認識であり、そうした他者への、より深く豊かな、しなやかでタフな想像力を一層養うこと」なのです。

（あとがきより）

〈発行〉 筑摩書房



『不滅の哲学 池田晶子』

[著者] 若松 英輔

彼女の哲学は多層的で、一義的に語ることを拒むところがある。あるときまで私にとって池田晶子は、言葉の神秘を生きた人物だった。

だが、このたび、静かに映じてきたのは、愛の哲学を語る一人の思索者の姿だった。そして今、この本を手放そうとする段になって、浮かび上がってくるのは、熱い言葉で幸福とは何かを語ろうとする池田晶子の姿である。

（増補新版あとがきより）

〈発行〉 亜紀書房

— 教化リーフレットの
 『活用』として —
 4枚の「教化リーフレット」
 は、各寺院・教会におおむね「寺報」
 や個別に複写しての配布、同朋
 会や聞法会での教材として活
 用いただければ幸いです。

— 11月のリーフレット —
 リーフレット①

「掲示板のごとは」……乙部大信

「お母さん

お父さん

子どもだけの

せいにしてませんか』

リーフレット②

「今月のいじは」……多田孝園

「専断執心判浅梁

報化二土正弁立』

リーフレット③

「もつち相談」……澤田 見

「受験する息子が

お守りを粗末に…』

リーフレット④

「仏典マンガ・仏さまのおしえ」

『着飾った僧』

（敬称略）

【お詫言と訂正】

先月号（4月号）の当欄「今月のいじは」
 の「案内」に誤りがありました。お詫言
 として訂正いたします。

正 「源信広開一代教 偏倚安養勸一切」
 誤 「専断執心判浅梁 報化二土正弁立」

お母さん

お父さん

子どもだけの

せいにしてませんか

親子の間で子どもに何か問題があると、その子にだけ問題があると考えてしまいますが、実際は親子の問題です。どんな環境でどんな育て方をしてきたかなど、上げればキリがないくらい様々な因があり、なにより親としての資質も問われているのに、自分を問わず立場の弱い子どもだけに問題を見つしまう。そんな偏った視点になっていませんか。

立場を小さくされている弱者のことを小さき者と言います。学校のクラスで問題児がいたら全体の問題です。会社に問題が起こるとリストラされるのは、立場の弱い人々です。能力主義に陥ると、仕事がテキナイ人だけに問題があると考えてしまいますが、実際はその組

織のシステムや社会の構造にも能力を十分に発揮させない問題点があるはずです。

コロナ禍で、高齢者、疾患がある者、福祉施設や病院にいる者、まもなく臨終を迎える者など、多くの小さき者がコロナに怯え苦しい生活を送っています。中には十分に面会できないまま臨終してしまう悲しい別離も多くあります。

子を育てる、老いた者を養う、病人をいたわる、死者を慈しむ、弱者を救済することで人類は人間らしく発達してきました。社会が人間らしくあるために、あなたを含め、小さき者がいのちの教師になり、コロナとう向き合うべきか教えています。(乙部 大信)

専雑執心判浅深 報化二土正弁立

専雑の執心、浅深を判じて、
報化二土、正しく弁立せり。

源信僧都は、釈尊一代の

仏教の中に念仏一門を開かれ、ひたすら安養の浄土への仏道を勧められました。専雑の執心に浅深があることを判別されたのです。

「専の執心」は深く、「雑の執心」は浅いと言われる。執心とは執着心ではなく、執持心のことです。しっかりと心を持つことでもあります。

「専の執心」は、阿弥陀仏の他力念仏の信心に依るから深く、「雑の執心」は、自力の善行を交え、称える念仏を私の善

としているので浅いのであります。

次に、浄土に「報土」と「化土」の二つがあり、「弁」とは分けるの意で、浄土の二つのあり様を正しく分けて立てられました。

「報」は、真実報土のことです。阿弥陀仏の救いの願いに「報いて」できた浄土であります。「化」とは、方便化土のことです。方便とは、真実へ招くための手立てです。化土とは、阿弥陀仏が真実報土へ生まれられない者を導くために、仮に変化して「現した浄土」のことです。

阿弥陀仏の本願を疑い、自力に依るものは、次のような方便化土に生まれると言われます。仏

の教えを聞くことも、仏を見ることもできない真実から遠く隔たった「辺地」。自らの力に慢心し、真実の浄土を求め心を懈り失ってしまう「懈怠界」。本願を疑い自らの善に執着し母体なのかの胎児のように安楽にこもるが、仏法に遇えない「疑城胎宮」です。

信心の反対は疑いであります。私の思いをもってする限り疑いは起こりません。疑いの心は、三毒（貪欲・瞋恚・愚痴）の煩惱に並ぶものです。沸き起こる疑いは、信心への大切な通路になるのであります。

疑いを持たずに信じるというのではなく、疑っても疑いきれないものがあるときに、真実との出遇いがあるのです。私と

いう身は自力では助からないと目覚めるときに、その者を救おうとしている真実に気づかされるのです。

源信僧都は、私たちの離れがいたい疑いを、深い省察から見つめられ、本願念仏の正しさを明らかにされました。

源信僧都を讃嘆された親鸞聖人は『教行信証』（信巻）に、「しばらく疑問を至してついに明証を出だす」と示されます。疑いを尊いご縁として、専ら本願念仏を申す中に、真実報土への仏道を確かめ歩まれていかれたのです。（多田 孝圓）

今月のことば出典『正信偈』

『真宗聖典』

207頁

『真宗大谷派 勤行集』（赤本）

28頁

もしもし相談



受験する息子が
お守りを粗末に…

問

息子の大学受験を前に、親として何かできないかと、有名な神社を巡って合格祈願をしています。その際、お守りも購入し息子に渡すと、「そんなものは気休め」といって大切にしていけないようです。まさかとは思いますが、粗末にしたことで何かあってはと気になっていきます。どうすればいいでしょうか。(52歳・女性)

答

実は去年、私の次男も同じように大学を受験いたしました。ですのでお気持ちにはよくわかります。親としては、どんな手を使っ

ても、それこそ神仏の力にすがってでも、我が子に合格してほしいと願うものでしょう。

この相談を拝見して、あなたのお子さまは、世間に流されない、しっかりとした自分の考えを持っている方だと、私には感じられました。

たとえば、うちの息子が入試に臨むといたしましよう。どうしても合格させてやりたいという親心から、私は霊験あらたかな神社にお参りに行き、必死にお祈りします。そして私の息子は神さまの力によって無事、合格することができました。家族一同喜び、心の底から神さまにお礼を申しました。めでたしめで

たし…。

…さて、本当にそうでしょうか。受験というものは、合格できる人数が最初から決まっているものです。つまりうちの息子が神さまの力で合格できたとすると、必ずその代わりに誰かがその大学に落ちているのです。私が神さまのおかげだと喜んでいながら、かわりに不合格だった誰かが泣いているのです。私たちはその存在になかなか気づくことができません。

人間を越えた存在に頼むこと、あるいは占いなどにすがるといふことは、多かれ少なかれ全てこの問題がついてきます。

私たちのご本尊である

阿弥陀如来は全ての衆生をあますところなく救い取りたいという願いを立てになり仏となられました。入試のことで言えば、全ての受験生が合格しても駄目であっても、それを乗り越え願きあっていける世界です。

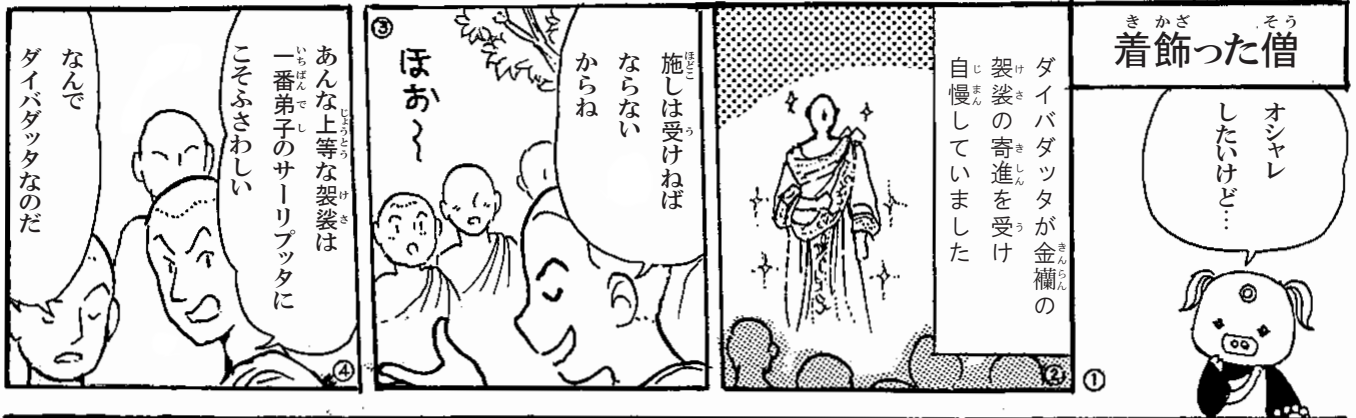
ぜひお子さまには受験の当日、お家のお内仏の前で手を合わせから行きなさいと勧めてみてください。仏さまはただただ等しく、全ての頑張る受験生を見守ってください。それを感じた時、きっとお子さまもプレッシャーや雑念を跳ね除けて、あるがままに受験に臨み、実力を発揮することができるでしょう。(澤田 見)



仏典マンガ・仏さまのおしえ



絵：小川ゆきえ <196>



参考仏典：『ダンマパダ』

仏典や仏教童話などを参考に教化センターが独自に創作したお話です。